

ニューズレター No.110

発行人 谷川 裕稔

2021(令和3)年4月19日発行

日本リメディアル教育学会、ニューズレターNo.110をお届けいたします。今回は、

- (1) 会長挨拶
- (2) 第16回全国大会のご案内
- (3) 編集委員会からのお知らせ
- (4) 第12回九州・沖縄支部 支部大会開催報告
- (5) 第9回関東・甲信支部大会開催報告
- (6) UeLA&JADE(ICT活用教育部会)合同フォーラム2020の開催報告

についてお知らせいたします。

会長挨拶

新型コロナウイルス感染拡大の状況下で、罹患された会員およびそのご家族の皆様、まずはお見舞い申し上げます。

本年度は昨年度中止となった第16回全国大会・総会を、**2021年8月18日(水)～8月20日(金)**にオンラインにて実施いたします。新型コロナウイルス感染症が未だ収束をみせないなか、今年度の支部会・専門部会にみられる他の学会活動は不透明な状況にはありますが、会員の皆様におかれましては、実施に向け引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

(谷川裕稔)

第16回全国大会のご案内

16回全国大会は、**2021年8月18日(水)～8月20日(金)**にオンラインで開催することが決定されました。

発表申込、参加申込開始までしばらくお待ちください(5月上旬を予定しています)。

なお、今大会ではポスター発表は実施いたしません。

編集委員会からのお知らせ

いつも本学会誌の刊行にご協力をいただき、ありがとうございます。

本会誌は2006年の創刊以降、年2号で刊行されていましたが、2018年以降(第12巻以降)は、年1巻で刊行されています。その間、カメラレディによる入稿から投稿システムを通じての入稿に変わるなど、雑誌の刊行方式が大きく変わりました。一方、規程等は旧来のまま残っているケースも多く、現状との不一致も多々見られます。

2021年3月の編集委員会において、そのうちのいくつかについて検討しました。主な変更点は、以下の通りです。

1. 投稿規程(第2条)の改定

(1) 各種別の規程ページ数の変更

「刷り上がりページ数」を「ページ数」に変更しました。これにより、組版後に規程ページ数オーバーが判明することがなくなると期待できます。

(2) 種別の整理・統合

類似した種別について検討し、「講座」「解説」は「解説」に統一いたします。また、実現可能性の低い種別である「座談会」については削除しました。

2. 執筆要項の改訂

執筆要項に本学会による「リメディアル教育の定義」を掲載いたします。これにより、会員は「定義」を参照しやすくなります。

また、和文要旨(400字)に対する英文要旨の文字数を500語から300語に変更しました。これにより、和文要旨に対し英文要旨がより詳細に書かれるというケースがなくなると期待できます。

3. 原稿テンプレートの改訂

投稿者が混乱しがちな項目(図表の定義、統計の記号の指針、引用資料の例示の増加など)について加筆した原稿テンプレートを公開いたします。

4. 誌面の一部刷新

現在、誌面の筆者情報は、和文氏名、和文所属名(〇〇大学、(株)〇〇〇など)、英文氏名、英文所属名のみです。検討の結果、

筆者情報に所属先の部局名(〇〇学部、〇〇センターなど)を加筆する欄を原稿末に設けます(位置等はデザインにより変更の可能性があります)。なお、該当する部局名がない場合は、記載しません。また、部局名の記載を希望されない場合は、それに対応します。

5. J-STAGE 早期公開の範囲

現在、早期公開は、投稿原稿であれば、すべての種別を早期公開の対象としています。過去、14巻においては、資金難のため、早期公開できない原稿も複数ありました。

編集委員会での検討の結果、今後は、早期公開される種別を、論文賞の選考対象である①論文、研究ノート、実践研究論文、実践報告と②資料、教材解説に限ります。また、資金難等不測の事態が生じた場合、①を優先して早期公開いたします。

また、早期公開する時期について、紙媒体の雑誌が刊行される時期を鑑み、3月31日受理分までを早期公開することとします。

以上について、次々号(第16巻)掲載分から適用します。投稿をご検討の方は、ご承知おきください。

(中園篤典)

第8回中国・四国支部大会の開催報告

2020年12月12日(土)、安田女子大学を開催校として、「オンラインシステムを活用した学習支援—その可能性と限界」を大会テーマに、第8回中国・四国支部大会をオンライン開催しました。支部大会の参加者は、34名でした。

■日時:2020年12月12日(土) 13:00~17:30

■開催方法:Zoomによるオンライン開催(全スケジュール)

■大会実行委員長:安田女子大学・安田女子短期大学 学習支援センター 山田貴子先生

■後援:広島県教育委員会・広島市教育委員会

※支部大会後には、中国・四国支部大会総会をおこないました。

第1部・第2部の研究発表では、6名の先生方にご発表いただき

ました。オンライン授業に関する発表を中心に研究発表を募集したこともあり、オンライン授業の教育実践に関する発表が多くありました。第3部では、「オンラインシステムを活用した学習支援の実践—教育の質保証と学生エンゲージメントの視点から」をテーマに、ラウンドテーブルをおこないました。愛媛大学の仲道雅輝先生、広島修道大学の馬場崎賢太先生、安田女子大学の山田貴子先生よりご報告いただきました。ご報告後には、山田貴子先生をコーディネーターとして、参加者を交えてのディスカッションをおこないました。参加者からもさまざまな質問が出され、活発なディスカッションとなりました。研究発表及びラウンドテーブルを通して、今後益々進展することが予測されるオンライン授業の在り方を考えるよい機会となりました。

支部大会開催にあたっては、大会実行委員長の安田女子大学の山田貴子先生に、たいへんお世話になりました。また、ラウンドテーブルにご登壇いただいた先生方をはじめ、ご発表いただきました先生方、ご参加いただきました皆様にもたいへんお世話になりました。深く感謝申し上げます。

COVID-19がなかなか収束せず、先行きが見えないところがありますが、令和3年度においても支部大会を開催する予定です。詳細は、決定次第、本学会のWEBサイト上でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

(秋山英治)

第12回九州・沖縄支部 支部大会開催報告

日本リメディアル教育学会九州・沖縄支部会では、第12回九州・沖縄支部大会を対面で開催しました。コロナ禍でしたが、発表者に関しましては例年通りの応募がありました。ただ、参加者は少なく、寂しくもアットホームな支部大会となりました。

日時:2020年12月5日(土)13時~17時

場所:サンメッセ鳥栖(佐賀県鳥栖市)

参加人数:13名(発表者9名、参加者2名、アルバイト学生2名)

内容:

13:10~13:20 開会行事

13:30~15:10 研究発表1

「中期サービスマーケティングプログラムによる学生の成長と成果:
海外大学における英語学習、エクスターンシップ、授業聴講の
並行モデル」

五十 峰聖(立命館アジア太平洋大学)

「教員との関係性が英語学習の動機付けに与える効果につい
て(武道学科学生を対象とした授業実践から)」

望月 好恵(国際武道大学)

「大学生英語学習者を対象としたオンライン辞書検索トレーニ
ングの効果」

藤田恵里子(江戸川大学)

「ライティング指導におけるセンテンス・コンパニング練習:内
容と方法の検討」

麻生 雄治(大分大学)

15:20~17:00 研究発表2

「大学低学年次の学生を対象とした PBL 科目の実践」

寺田 貢(福岡大学)

「協同学習手法を導入した対面授業のオンライン化」

米満 潔(佐賀大学全学教育機構)

「コンピュータスキル向上のための工夫と問題点」

朴 南圭(帝京平成大学)

「コロナ禍で分かったライブストーリーミングの有効性」

江原由裕(九州龍谷短期大学)

「オンライン授業のための FD 研修における簡易的な収録と配
信の試み」

古賀崇朗(佐賀大学全学教育機構)

17:10~17:20 九州・沖縄支部総会(少人数だったため中止)

(江原由裕)

第9回関東・甲信支部大会開催報告

2021年2月21日(日)に日本リメディアル教育学会第9回関東・甲信支部大会を開催しました。当初は山梨学院大学を会場として実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、zoom ウェビナーを利用したオンライン開催に変更しました。パネリ

スト、実行委員を含め、87名の参加者がありました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の流行が高校生の学びにどのような影響を与えたか、4月に新入生を迎える大学ではどのようなサポートをする必要があるかなどを共に考えるため、実際に高校で教壇に立たれている3名の先生方をパネリストとして迎えてパネルディスカッションを行いました。パネリストからは、予定された学習事項は終わることができたものの実験実習がある科目では生徒に十分な経験を得させられなかった、その一方で、ICT教育は前進したなどの報告がありました。また、学習面以外では、部活動や文化祭、体育祭などの活動が制限され、社会性を育み、達成感を味わう機会が失われたという指摘もありました。

会員からは、9件の発表がありました。コロナ禍の中での学修支援のあり方、日本語表現や外国語の教育、専門分野への導入に関する研究など、様々な分野の発表がなされました。

■日時:

2021年2月21日(日)13:00~16:20

■開催方法:

オンライン開催(zoom ウェビナー)

■日程:

13:00-13:10 総会・開会(ウェビナー1)

開催校挨拶 山梨学院大学副学長(兼学習・教育開発センター長) 青山貴子先生

13:10-14:40 パネルディスカッション(ウェビナー2)

コロナ禍の一年を振り返って—高校生が失ったもの、得たもの—
司会:近藤裕子(山梨学院大学)

パネリスト:田中実氏(山梨県立増穂商業高校非常勤講師)・久保寺信一氏(山梨県立山梨高等学校教諭)・藪田(川島)美生氏(都留文科大学他非常勤講師)

15:00-15:20 会員発表1

○ウェビナー1

秋山英治(愛媛大学)「日本語科目における授業形態の変更に伴う再履修者の取組状況の変化について」

○ウェビナー2

出野由紀子(仙台青葉学院短期大学)「観光ビジネス分野における効果的な中国語・韓国語の学習法の考察—英語科目の中でのアクティビティを通して—」

○ウェビナー3

鈴木優典(山梨学院大学)「法学・政治学分野における初年次での観点形成のためのグループワーク」

15:25-15:45 会員発表 2

○ウェビナー1

塩島翔(二松學舎大学)「オンライン授業における文章表現法の実践と課題—「漢学と文章表現」および「国語表現 I・II」から—」

○ウェビナー2

藤牧新(東海大学)「コロナ禍の中でのリメディアル英語教育のあり方についての一考察—TOEIC 対策クラスにおける試み—」

○ウェビナー3

石毛弓(大手前大学)「2020 年度の学修支援の取り組み—新型コロナウイルス下での活動記録—」

15:50-16:10 会員発表 3

○ウェビナー1

田中啓行(中央学院大学)「大学 1 年生が体験文、説明文を執筆する過程の分析の試み—執筆中の修正を中心に—」

○ウェビナー2

佐藤真理子(和光大学)「学校英語教育の課題—到達目標達成群と未達成群の授業内学習効果に関する比較研究—」

○ウェビナー3

佐藤壮広(明治大学)「コロナ危機下における共感表現教育の実践—学生コロナ川柳作成ワークの事例から—」

16:15-16:20 閉会(ウェビナー1)

(大野早苗)

UeLA&JADE (ICT 活用教育部会) 合同フォーラム 2020 の開催報告

2021 年 3 月 9 日(火)「ポストコロナにおけるオンライン教育のありかた」と題して以下のとおりオンラインで合同フォーラムを開催した。基調講演には文部科学省よりデジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(Plus-DX)DXの推進に関して講演していただきました。事例発表 6 件ならびにパネル討論、口頭発表 14 件、参加者 67 名と様々な事例や研究発表により、今後の日本のオンライン教育のありかたについて議論を深めることができ、盛会のうちに終了

することができました。予稿集は PDF 形式にて公開いたしました。ご支援いただいた皆さま、ご発表・ご参加いただいた先生方をはじめ関係各位に心より感謝申し上げます。

日時:2021 年 3 月 9 日(火):大学eラーニング協議会(UeLA)・日本リメディアル教育学会(JADE)(ICT 活用教育部会)合同フォーラム
方法:オンライン開催

【口頭発表】合計 14 件
3 月 9 日(火) 9:40~12:10 方法:オンライン ZOOM (A 会場)

座長◎:米満潔(佐賀大学)、中尾桂子(大妻女子大学)

◎:発表者

A-01 9:40~10:00
意識調査からみる非対面授業の課題:統一的導入、見守り感覚、メタ認知言語化の必要性

◎◎中尾桂子(大妻女子大学)

A-02 10:00~10:20
オンラインシステムを用いた英語多読学習行動:遠隔時と対面時の違いに着目して

◎金井典子(仙台青葉学院短期大学)

A-03 10:20~10:40
初年次キャリア教育のための同時双方型ブレイクアウトルームの活用事例

◎出野由紀子(仙台青葉学院短期大学)

A-04 10:40~11:00
山梨大学情報系学科および情報系コースにおけるオンライン反転授業の一事例紹介

◎小俣昌樹(山梨大学)

A-05 11:10~11:30
コンテンツベース(コンテンツサブジェクト)による自律的な学習

◎上原義正(オクラホマシティ大学)

A-06 11:30~11:50
遠隔授業でのブレイクアウトセッションにおけるオンラインホワイトボード活用

◎◎米満潔、古賀崇朗(佐賀大学)

A-07 11:50~12:10

保育者養成におけるオンライン授業「教育の方法と技術」の設計

○田中洋一(仁愛女子短期大学)

(B会場)

座長◎: 曾我真人(和歌山大学)、小林昭三(新潟大学) ○:

発表者

B-01 9:40~10:00

流体圧力と E. H. Graf の浮力背理をめぐる遠隔学習型アクティブラーニング

◎○小林昭三(新潟大学)、小栗美香(川越高等学校)、伊藤克美(新潟大学)、興治文子(東

京理科大学)

B-02 10:00~10:20

LMS コースの構成調査に基づく学習アドバイス DB の検討

○大西淑雅、山口真之介(九州工業大学)、西野和典(太成学院大学)

B-03 10:20~10:40

フォームを活用したオンラインテストのフォーム間での特性比較

○小川健(専修大学)

B-04 10:40~11:00

反転学習モデルのフルオンライン化とプログラミング系科目での検証

○上野春毅、山川広人、小松川浩(公立千歳科学技術大学)

B-05 11:10~11:30

インタラクティブなコミュニケーションを可能とした分散協働型の遠隔講義

○西村竜一、井上彩海、曾我真人(和歌山大学)、腰塚尚志、細川瑞彦(国立研究開発法人情報通信研究機構 NICT)

B-06 11:30~11:50

HCI システムの企画設計を課題とした PBL における対面とオンライン実践の比較分析

◎○曾我真人、西村竜一、尾久土正己(和歌山大学)

B-07 11:50~12:10

統計分析フリーソフト「R」を使った統計学習とデータサイエンス

○西誠、山岡英孝、谷口哲也、渡辺秀治(金沢工業大学)

【事例発表・パネル討論】6 件

14:50~16:30

1. アクセスログから見る 2020 年度の授業実施概要

信州大学 e-Learning センター

2. 愛媛大学におけるオンライン授業対応等、取り組み事例の紹介

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 仲道雅輝

3. 山梨大学における数理・データサイエンス・AI 教育の展開

山梨大学 教育国際化推進機構 大学教育センター 佐藤友香、鈴木一克、埴雅典、森澤正之、日永龍彦、鈴木裕

4. COVID-19 下での遠隔教育

長岡技術科学大学 総合情報センター マルチメディア・eラーニング部門(旧・eラーニング研究実践センター)

5. 創価大学におけるコロナ対応と今後

創価大学 教育・学習支援センター 望月雅光

(仲道 雅輝)

会費納入について

会則第 8 条に規定されていますが、本会の 1 年間の会費は次の表に示すとおりでありますので、お間違いのないようお願いいたします。期日(5 月 31 日)までに、入金をお願いいたします。会費滞納は、本会の運営に支障を来すこととなります。また、会員としての特典を受ける際に制約を受けることにもなりますので、ご理解とご協力をお願いします。

1 年間あたりの会員種別ごとの会費

正会員	6,000 円
大学会員	12,000 円
賛助会員	30,000 円

なお、大会などにおいて企業等が展示される場合、当該団体は原則として、会員でなければならぬ決まりがあります。

また、領収書が必要な場合は学会 HP 問い合わせからご連絡ください。なお、領収書発行事務手数料が別途必要となります。

会誌への論文等の投稿について

会誌『リメディアル教育研究』では、リメディアル教育に関する研究、教材や教授法の開発と評価、実践の報告などについての原稿を募集します。投稿は本会の会員が筆頭者であるものに限り（編集委員会が特に認めた場合は、非会員からの論文等を掲載することもあります）。掲載の採否は、査読審査を経たのち、編集委員会において決定します。原稿料の支払い、掲載料の徴収はいたしません。

【文責】藤田 大雪